

■（１８６）のど元過ぎた？ 防潮堤めぐる議会のやりとり

耳を疑った。東日本大震災被災地の市議会だった。津波警報で防潮堤の扉を自動で閉める岩手県の新システムがテーマで、複数の市議が質問した。「海側に残した車などを取りに行くから扉を開けてという人が現れたらどうする。対応を考えておかないと混乱する」

４年近く前の震災で、同県内だけで４８人の消防団員が犠牲になった。防潮堤の水門を閉めに行って津波に襲われた人たちだった。その教訓から、津波警報が出たら、遠隔操作で自動で扉を閉めるシステムを導入すると県が決めた。すでに静岡県で導入されている仕組みで、被災した東北３県では先駆けた動きだという。「そうは言っても、地震から津波まで時間があるから、開けろという人は現れる」と食い下がる市議に、説明する県担当者は「命を守るのが最優先」と繰り返した。あれだけ巨大津波で怖い思いをしたはずの被災地でも、大丈夫だろうと海に近づく人が現れるという発想が、もう出始めているらしい。

被災地以外の人にどうやったら関心を持ち続けてもらえるか、を意識しながら新聞やテレビは伝えている。時には政治家の風化を批判もした。が、懸念は足元にもあった。（山）